

なにを、なぜ、どのように、保存するのか？

開催にあたって

図書館やアーカイブズの歴史的・文化的な役割は、人間が営々と蓄積してきた知へのアクセスを現在と将来において保証することにあります。しかしながら1980年代の後半に提起された「酸性紙問題」は、図書館等のこうした役割を根底から揺るがすことになりました。本や文書などの過去の遺産が、資料が自ら生み出す酸によって自壊してしまうという問題に対して、世界の図書館・アーカイブズは、資料の保存とはなにか、その方法は、という課題にあらためて取り組むことになり、これに呼応するように日本でも、さまざまな啓蒙や実践が重ねられてきました。

しかし、これまでの国内での流れを振り返ると、資料のなにを(what)、なぜ(why)、保存しなければならないのかと問われることは少なく、どのように(how)保存するのかという技術論に偏した議論と実践が繰り返されてきたのではないのでしょうか。これは、中・長期的かつ体系的な資料保存計画を持つ機関が依然として少数であること、紙媒体資料に代表されるアナログ記録とは性格の全く異なるデジタル記録を、同じ「資料」として捉えることができないこと一等に象徴されるように思われます。

本来、私たちが目指すべき資料保存とは、「なにを、なぜ、どのように」の全てを包含する闊達な仕事であるべきです。「どのように」の前に、「なにを、なぜ」と問うこと、技術論ではなく図書館・文書館の資料収集や蔵書構築等の仕事と有機的に連動した、資料保存のための組織的、体系的な取組み＝プリザベーション・マネジメントこそ、いま、論議されるべきでしょう。

開催内容

日時： 2007年10月4日(木) 10:00～17:10
(受付 9:30 開始)

会場： 江戸東京博物館1階ホール (JR総武線両国駅西口徒歩3分)
〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1 TEL03-3626-9974 (代表)

プログラム

- 基調講演 資料保存の再設計 - 図書館・アーカイブズがその使命を果たすために -
安江明夫(国立国会図書館顧問)
- 講演1 学術図書館における戦略的資料保存
小島浩之(東京大学経済学部資料室助手)
- 特別講演 資料のデジタル化の問題点と将来
石井米雄(国立公文書館・アジア歴史資料センター一長)
- 講演2 デジタル情報の保存 - 新たなチャレンジ -
上田修一(慶應義塾大学文学部教授)
- 講演3 アーカイブズ保存の展望 - 沖縄県立公文書館の場合 -
大湾ゆかり(沖縄県立公文書館修復士)
- 講演4 『修復』を越えて - 資料のコンサベーションとはなにか -
木部 徹(有限会社資料保存器材代表)

併催事業

資料保存関連機関や企業による展示会(12:00～18:00)

定員： 300名

参加費： 無料 申し込み締め切り：9月27日(木)

後援：(依頼中) 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会・日本アーカイブズ学会・専門図書館協議会
・国立大学図書館協会・私立大学図書館協会・文化財保存修復学会・ARMA東京支部
・企業史料協議会・記録管理学会・全国大学史資料協議会・アート・ドキュメンテーション学会

情報保存研究会・日本図書館協会共催シンポジウム
「プリザベーション・シヨウ・マネジメント」
「資料保存の新しい地平」

お申し込みは E-mailまたはFAXをお願いします。

①お名前②ご所属③ご連絡先(E-mailアドレスまたはお電話番号)をご記入の上、下記へお申し込み下さい。

E-mail : sympo@e-jhk.com FAX : 03-5976-5462

情報保存研究会事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷1-14-2-71
・お申し込みの際にいただいた個人情報はシンポジウムの実施、運営にのみ使用いたします。